

TCFDフレームワークに基づく気候変動開示

①ガバナンス

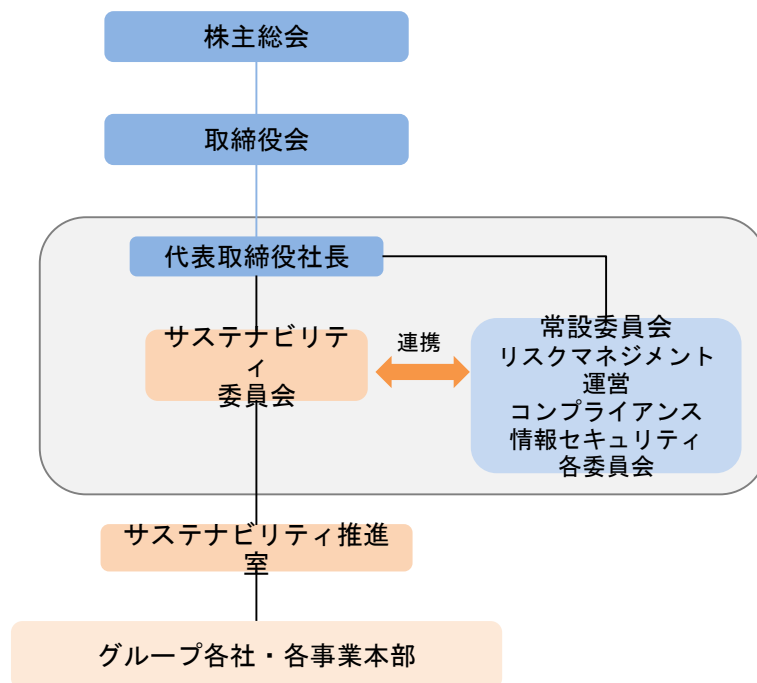
当社は、経営理念を実践することこそが、社会や自然との共生や、持続可能な社会の実現につながると認識し、ステークホルダーの皆様とともに、“安全・安心”の追及、人材開発、技術の伝承、社会貢献活動、環境活動を含む、さまざまな事業活動に取り組めます。

気候変動に係るリスク・機会の分析・管理に関しては、代表取締役社長が管掌するサステナビリティ委員会が、他のサステナビリティ課題・取り組みなどと併せて、経営計画との整合性の確認及び施策の管理・監督を行います。

また、サステナビリティ委員会は気候変動を含むサステナビリティに関する重要事項について、必要に応じて取締役会への報告を実施します。

気候変動に関する具体的な分析や施策については、サステナビリティ推進室が取締役会、サステナビリティ委員会及び環境マテリアリティ・オーナーの監督のもとに実施しています。

また、サステナビリティ推進室はグループ内の事業部門、本社機構、子会社と連携し、気候変動リスク・機会の事業戦略への落とし込みや気候変動関連課題への対応策、管理指標および目標の検討を行い、サステナビリティ委員会へ上申、報告を行います。



②戦略：気候変動によるリスクと機会

気候変動が当社事業・業績に与える影響について、TCFDフレームワークに基づいて定性的な分析を行いました。

シナリオ

以下2つのシナリオに基づきシナリオ分析を実施しました。

- 2°C未満シナリオ（IPCC SSP1-2.6シナリオ）：低炭素経済へ移行するシナリオ
- 4°Cシナリオ（IPCC SSP5-8.5.1）：物理的気候変動リスクが高まるシナリオ

なお、分析の時間軸は基本的に移行リスクについては2030年、物理的リスクは2050年を基準としています。

対象範囲

フジテック株式会社及び連結子会社を分析対象として選定しています。

特定した気候変動に関連するリスクと機会はP3の一覧のとおりです。

当社では、今回特定したリスクと機会に関して、財務インパクトの把握やリスク・機会への対応策の導出を、引き続き進めてまいります。

気候変動によるリスクと機会 一覧

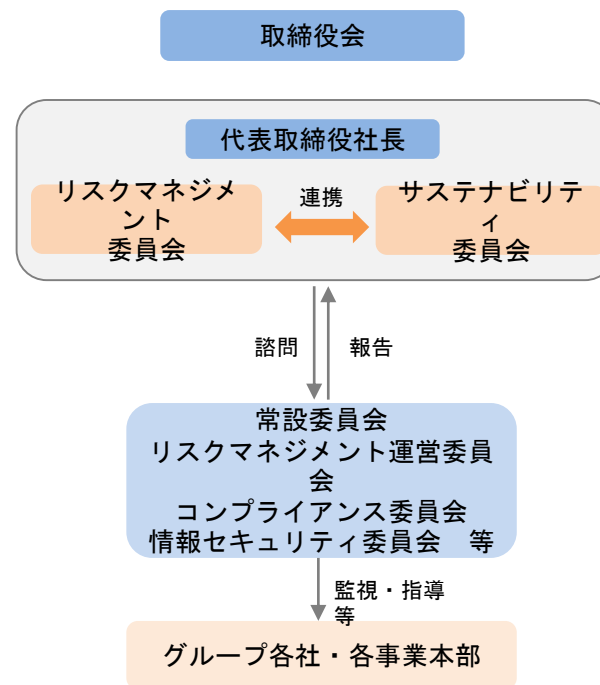
	カテゴリ	世の中の動き	温度シナリオ	事業リスク (インパクトを定性的に、どの勘定にどのような影響を及ぼすか)	影響度評価	発現の時間軸 中期:2030 長期:2050	機会 (インパクトを定性的に、どの勘定にどのような影響を及ぼすか)	影響度評価
1	政策・法的リスク	建築物のエネルギー原単位規制	2.0°C	建築物のエネルギー使用原単位低下に向けた、省エネ製品開発のプレッシャー拡大による売上減少リスク	小～中	中期	昇降機の軽量化、回生電力対応、DX活用などの省エネ製品開発により、省エネ需要の増加への対応力強化、売上機会の拡大	中
2	政策・法的リスク	ZEB導入目標	2.0°C	製品使用量GHG排出量データ提出義務化等の規制強化、対応できない場合の売上機会喪失リスク	小～中	中期	昇降機の軽量化、回生電力対応、DX活用などの省エネ製品開発により、省エネ需要の増加への対応力強化、売上機会の拡大	大
3	市場動向	原料価格の高騰（鉄、アルミ、銅）	2.0°C	CO2排出規制による、金属素材のコスト増加による部材価格の高騰リスク	大	中期	金属使用量を減らし、軽量化したエレベータの開発による売上機会へ拡大	中
4	市場動向	産業廃棄物の規制強化	2.0°C	既存エレベーターのモダンゼーションに伴う廃棄物管理によるコスト上昇リスク	中～大	中期		
5	市場動向	輸送の脱炭素化	2.0°C	航空機、船舶などの電化が困難な輸送手段の運賃高騰リスク	中～大	中期		
6	市場での評判	脱炭素対応が遅れている/未対応企業に対する顧客からの引き合い減少	2.0°C	脱炭素の対応遅れによる新規・既存顧客からの引き合い減少・売上減少リスク	中	中期	顧客の脱炭素に貢献する、省エネ・省資源・環境にやさしい製品の開発により競争力を高める	中
7	市場での評判	脱炭素対応が遅れている/未対応企業に対する投資家からの低評価・ダイバーストメント	2.0°C	脱炭素の対応遅れによる投資家の評価の低下、株価下落リスク	小	中期		
8	平均気温の上昇	ヒートストレスの拡大による労働生産性低下、対応コストの上昇	4.0°C	不十分な夏季の暑さ対応による、従業員の体調不良の発生、労働生産性の低下リスク	中～大	長期		
9	平均気温の上昇	平均気温上昇による猛暑日の増加	4.0°C	外気温が一定水準を超えた場合の操業停止規制リスク	大	長期		
10	天候災害の激甚化	大雨や降水量の増加に伴う洪水発生頻度の増加	4.0°C	事業活動の停止による機会損失の発生、設備・製品・在庫などの損壊による資産価値の下落リスク	大	長期	沿岸地域を中心とした既存設備の故障増加に伴うモダンゼーションの機会の増加（マシン配置位置変更等による水害に強い昇降機開発も含む）	中～大
11	天候災害の激甚化	天候災害によるサプライヤー拠点の被害	4.0°C	サプライチェーンの寸断、輸送の遅延、原材料調達遅延、コスト増加リスク	大	長期	サプライチェーンリスク管理ができていた場合には、部品供給や修理を含む災害への迅速な対応による顧客からの評判・評価の上昇、事業機会の拡大	小
12	天候災害の激甚化	天候災害による浸水・停電などの頻度増加	4.0°C	災害時に顧客設備復旧への迅速・柔軟な対応ができない場合の顧客の評判低下リスク	中	長期	大規模災害発生時のDX活用による復旧要員の最適な配置、リモート監視による復旧の早期化に伴う競争力向上の機会	中

③リスク管理

フジテックでは、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、事業リスクの低減と倫理・遵法、環境、品質問題など社会的に大きな影響を与えるリスクの根絶をめざし、リスクの早期発見とその対策に取り組んでいます。

この下位組織として、「リスクマネジメント運営委員会」を設置して、リスクマネジメントが全社的に機能するよう、情報の収集および指導・管理を行い、企業を取り巻く潜在的なリスクに対して、迅速かつ的確な対処を行っております。

気候変動に関連する重要なリスク等については、全社リスクマネジメント管理のプロセスと同様に、リスクマネジメント委員会がサステナビリティ委員会と経営会議による分析を経てその影響度や管理状況について適宜取締役会への報告を行っています。



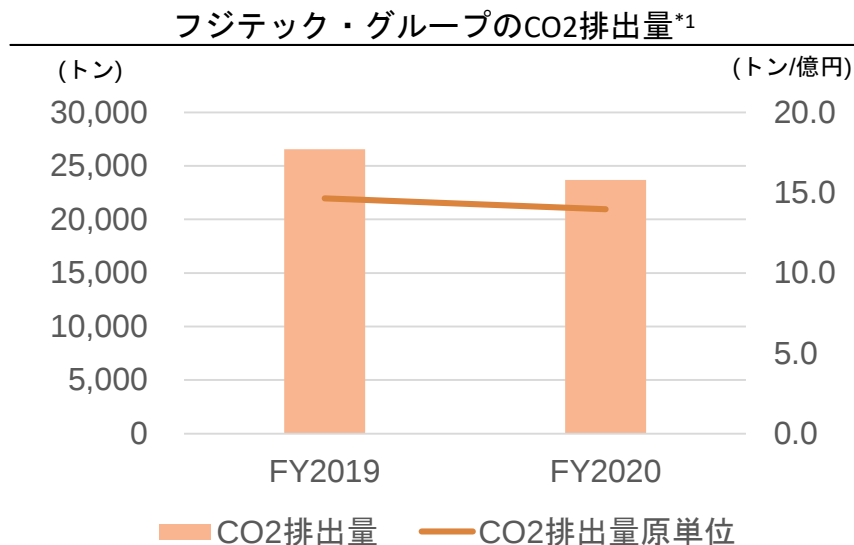
④指標と目標

フジテック・グループの温室効果ガス（以下、GHG）排出量（スコープ1,2）は以下の通りです。
2020年のScope1,2のGHG排出量は、前年比10.8%減少し、23,691トンでした。売上高原単位は、前年の14.6トン/億円から14.0トン/億円に減少しています。

フジテックは環境や社会にやさしい企業として、脱炭素など社会的課題の解決に向けて、社会インフラを担う当社ならではの貢献ができることを検討し、社会的責任を積極的に果たしていきます。

脱炭素の取り組みとしては、今後はサプライチェーンのお取引先様との情報共有を進めながら、Scope3GHG排出量の捕捉を進めてまいります。

将来的には、脱炭素社会への貢献にかかる目標を策定し、開示に向けて検討を進めてまいります。



注1：フジテック株式会社及び全連結子会社が対象